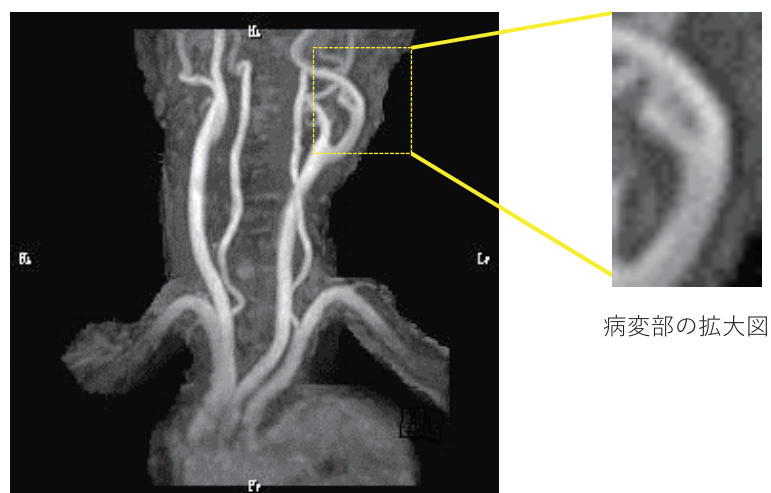


血流表示機能を駆使し、超音波検査で形状が明らかとなった内頸動脈瘤の1例

濱口 浩敏

Fig. 1 頸部 MRA. 左側：左内頸動脈に限局性拡張を認めている（四角囲み）. 右側：病変部の拡大画像. 隔壁構造は明らかでない

頸部MRA



病変部の拡大図

症例：80代女性. 左上下肢のしびれを機に当院受診. 頭部MRIにて右放線冠に急性期脳梗塞を認めた. 頸部MRAにて左内頸動脈に限局性拡張病変を認め（Fig. 1）, 精査目的に頸動脈超音波検査を施行した. 使用装置はLOGIQ E10x（GEヘルスケアジャパン株式会社, 東京）を用い, L3-12-Dリニア型プローブを使用し, 仰臥位で観察した. 両側頸動脈に動脈硬化性病変なく, 左内頸動脈起始部より約2 cm 遠位部で内頸動脈の屈曲を認め, 同部位に片側性に突出した動脈瘤を認めた. 断層像では形状の詳細な評価が困難であったが, カラー Doppler 画像では内部に流入する血流を観察できた. B-Flow 画像, Hybrid B-Flow 画像, Dual B-Flow 画像で観察したところ, 動脈瘤の内部に隔壁構造が存在することが明らかとなった（Fig. 2）. この隔壁構造はT字の

ようになっており, 可動性は認めなかった. 瘤外の血流は層流に見えるが, 瘤内は隔壁より遠位部で乱流を形成していた. 本例は線維筋性異形成による一側に突出した動脈瘤¹⁾を考えたが, 腎動脈など他の動脈には数珠状変化や動脈瘤を認めず, 確定診断には至らなかった.

内頸動脈瘤の評価は, 瘤のサイズと形状を詳細に観察することが治療方針の決定に必要である²⁾. 本例では, B-Flow を駆使して動脈瘤の内部構造として隔壁構造を認めていることが判明した. このことは将来的な血流変化を促す可能性, 形状の変化に影響を及ぼす可能性が考えられたため, 重要な情報である. B-Flow 画像はドプラを使わず B-mode を用いて血流を表示する機能であり, 微細な血流を深部まで描出可能である. 分解能が高いこと, フレーム

A case of internal carotid aneurysm whose shape was revealed by carotid ultrasonography

Keywords: internal carotid aneurysm, B-Flow, carotid ultrasonography

北播磨総合医療センター脳神経内科

Hirotoishi HAMAGUCHI, SJSUM

Department of Neurology, Kita-harima Medical Center, 926-250 Ichiba-Cho, Ono, 675-1392 Hyogo, Japan

Corresponding Author: Hirotoishi HAMAGUCHI (hirotoishi_hamaguchi@kitahari-mc.jp)

Received on July 19, 2021; Revision accepted on October 15, 2021 J-STAGE. Advanced published. date: November 26, 2021